

C F T ニュース & 息抜き（４月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

1. 2026年3月の気になる問合せ

(1) 在京テレビ局である。幾つか聞きたいことがあり電話した。

- ① ノンカフェインコーヒー名称が欧米で使えるのに日本では使えないように全日本コーヒー公正取引協議会が決めていると聞いたが何故か。
 - ② ノンカフェインコーヒーとカフェインレスコーヒーの違いは何か。
 - ③ カフェインは安全なものか、安全でないものか。
 - ④ カフェインレスコーヒーの消費が伸びていると聞くが何故か。
 - ⑤ カフェインレスコーヒーの製法はどのようなものがあるのか。
 - ⑥ 近年のカフェインレスコーヒーの味が良くなっていると聞くが何故か。
 - ⑦ カフェインレスコーヒーとデカフェネィテッドコーヒーの違いは何か。
- 以上を回答して欲しい。

⇒ ①について

全日本コーヒー公正取引協議会は、全日本コーヒー公正競争規約で『カフェインを90%以上除去したコーヒーにあつては、「カフェインレスコーヒー」、「デカフェネィテッドコーヒー」等と表示する』と1991年に定め、これが公正取引委員会委員長の認定を受け、官報に告示されたものである。コーヒー公取協が勝手に定めたものではない。

当時、カフェインレスコーヒーの製造方法として、カフェイン除去に優れた化学的処理によるもの、水処理によるもの、最新技術の超臨界技術によるものがあったが、カフェイン除去が効率的に行える化学的処理は食品衛生法で認められない物質を使用するため、この処理によるカフェインレスコーヒーの販売はできなかった。このようなことがあり、ノンカフェインコーヒー名称は使用しないことになった。

また、分析技術が進歩してきており無視できるほどのカフェインの残存であっても検出可能になってきているので、ノンカフェインに異議ありと

いう方もいることに配慮している。

②について

ノンカフェインコーヒーは字義に照らせば、カフェインが無いということであり、カフェインレスコーヒーは0.1%以下でも残存しているということであろう。消費者庁はカフェインの検出法は定めていないと理解しており、僭越にゼロ定義は行えない。

③について

コーヒーに含まれるカフェインは安全であると理解している。10年ほど前、新聞に「コーヒーに含まれるカフェインで中毒死」というタイトルの記事を見たが、読めば「エナジードリンクと酒を大量に摂取して死に至ったもの」で、コーヒー飲用ではなかった。カフェインというとコーヒーが枕詞になり困ることがある。コーヒーは昔、日本薬局方に掲載され薬扱の時代もあった。

カフェインの安全性については食品安全委員会のファクトシートを見ていただきたい。

④について

コロナ感染が広がり自宅で仕事をするようになってからカフェインレスコーヒーの消費が増えたと思う。英国の食品安全庁が妊婦はカフェイン摂取を控えるよう求めた影響もあろう。また、カフェインレスコーヒーの味が改善され美味しいコーヒーとなったことも大きい。

⑤について

①で応えた。

⑥について

カフェイン除去技術が進んだためだと思う。海外におけるインフューズド処理については知らない。

⑦について

同じもので英語表現の違いである。

(2) レギュラーコーヒーとクリーミングパウダーをミックスしたワンドリップ製品についてデザインを作成したので、表示（省略）について確認してください。名称はコーヒー調整品とします。

⇒ 表示を見たところ問題ありませんが、包装箱の裏面下に「本格コーヒーの味わいと優しいミルクの口当たり」とありますが、本製品はミルクを使用せず、植物油脂等による代替であるので、「ミルク」というと乳等省令に抵触する恐れ大です。「クリーミーな口当たり」程度でないでしょうか。

厚生労働省は、無脂乳固形分 4.0%以上のものは「ミルク」「乳」の文字が使えますが、植物油脂などを原料とする異種脂肪のものは「ミルク」「乳」の文字は使えないとしているのでないでしょうか。

2. コーヒーを巡るいろんな状況

4月！ 全日本コーヒー公正取引協議会も新年度に入った。米国の独裁者的大統領のイラン攻撃でアジア地域の国々は石油や LNG などの入手が困難になりつつあり、当業界にもプラスチックフィルムの提供が夏以降、難しくなるかもしれないと納入企業から言われたと先般聞いた。石油はエネルギーだけでなく環境負荷が問題となるプラスチック製品の素材でもある。弁当・惣菜業界もプラスチック容器の入手が困難になりつつあるようである。CFT 子はコンビニサラダの愛用者であり、これを我慢することになるのかもしれないと思うと憂鬱である。

コンビニと言えばアイスコーヒーである。アイスコーヒーの容器はプラであり、中の氷は電力の塊であるから値上げとなるのだろうか。原料のコーヒー豆は依然として高値圏にあり、安く提供できる環境にない。暑い夏に一服の清涼感を得ることのできるアイスコーヒーは厳しい状況下にある。

CFT 子は女房殿の富山市の実家の処分につき合わされ 3 月末に不動産屋と合意でき、翌日、富山県中央植物園に遊んだ。熱帯植物園にはコーヒーの樹が 3 種類、アラビカ種、カネフォラ種、リベリカ種があった。いずれのコーヒー樹にもコーヒー豆が実り、初めて見るリベリカ種の実が 3 種類の中では最も大きかった。説明書きでは生産量は世界生産の 1% 程度で味はよくないとしてあった。このト書きは正しいように思えた。夢の島植物園や地元の板橋区植物園も訪れたことがあるが「コーヒーの樹」とあっただけのように思う。富山の植物園の管理者はコーヒー好きなのかもしれない。

口から出まかせ為政者はホルムズ海峡から手を引くと発言していると報道されていたが、早く手を引いて出てこないで欲しい、というのが幾つかの大国を除いての共通した思いであろう。今回のイラン攻撃でフーシ派が動き出すとふた

たびエチオピア産コーヒーの輸入が困難化しかねない。コーヒーの安定供給は世界平和にかかっている。

(2026年4月2日記)